

サンデンは黒字転換からの事業成長に向け、電動化対応を中心とした事業体制の刷新を進めている。電動車向け製品を増産する一方、内燃機関（ICE）車向けはラインを集約する。2021年に傘下入りした中国ハイセンスグループとは調達に加え新商品の共同開発にも乗り出し、シナジーを追求する。サンデンの小林英幸副社長に戦略を聞いた。

―電動化戦略に注力だ。個々の生産ラインを精査し、稼働率を高めています。

「中期計画の最終年（28年12月期）に向けて電動コンプレッサ増産の準備は整っている。28年をめどにインドで新ラインを立ち上げ、グローバルで年産650万台を達成する。他方で機械式コンプレッサやHVAC（暖房・換気・空調）生産の集約も重要項目

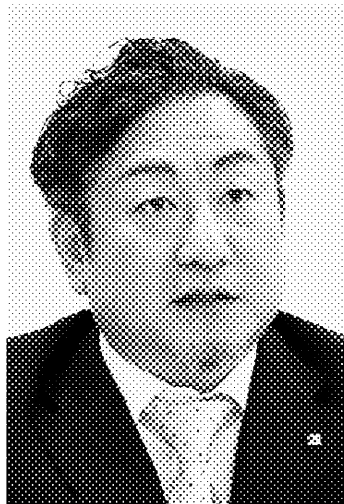
め、コストを低減する。ただ、事業を止めるわけではない。他社が消極的なこともあつて現在引き合いが増えており、需要に応える」

「電気自動車（EV）シフトの停滞は短期的とみている。当社電動コンプレッサや統合熱マネジメントシステム（ITMS）

黒字転換から成長へ

サンデン副社長

小林 英幸氏



「ソフトウェア定義酸化炭素（CO₂）濃度など空気質の研究も進んでいる。『車に乗って低減や半導体、物流

いる。デジタル変革（DX）の活動にも期待している。加えてハイセンスと共同で新商品を開発し、顧客へのプレゼンテーションを始めた。両社の技術が生かせる、空調以外の、空調と関係する商

電動化中心
増産準備整う

は、プラグインハイブリッドシステム』は「質」を実現したい」

ツド車（PHV）やハイブリッド車（HV）でも使える。新エネルギー。特にHVACなどナジは。――親会社であるハイ

「（21年の傘下入りから）システム関係の事業は、計画が立てられるはずだ。風の当たり方や二設

品となる」

―ハイセンスグループ内の人事により、8月に徐湛^{ジョゼン}氏が社長に就任しました。

「徐氏は22年から副社長を務めており、当社を良く知っている。グローバル購買のスペシャリストで、（人柄は）とても親しみやすい。コミュニケーションが好きて、良く人と話す人物だ。黒字転換から成長を目指す局面に良いリーダーだ」

記者の目

記者の目

サンデンは21年の事業再生ADR（裁判以外の紛争解決）成立から再建を進め、26年12月期に経常損益を黒字化する見込み。自動車の電動化、有機フッ素化合物（PFAS）規制など環境の変化を商機に変え、28年12月期に経常利益90億円を目指す。仕込んできた新製品が狙い通り市場の需要を捉えられるかどうかが目標達成のカギを握る。

（辻本亮平）

新製品が目標達成の力キ